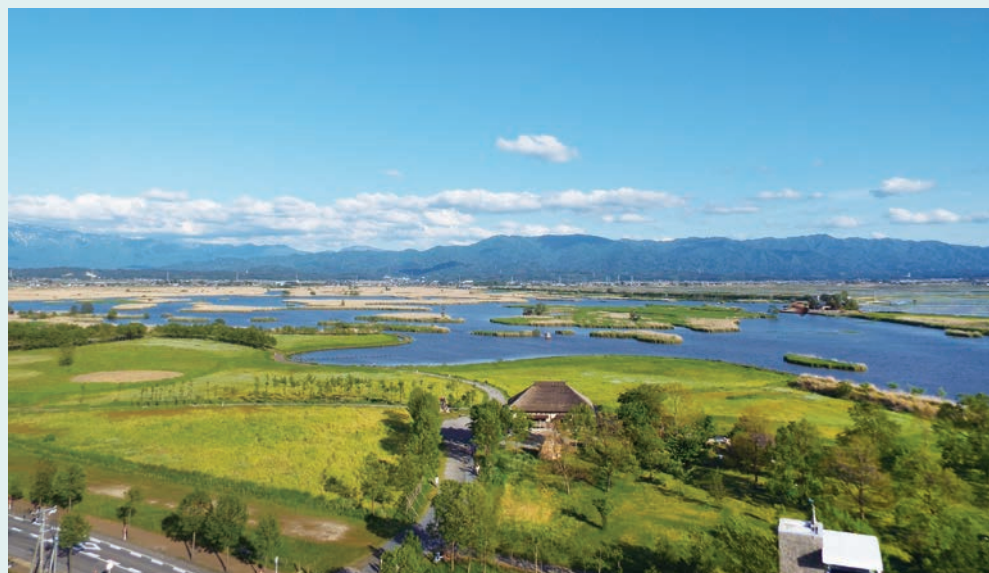




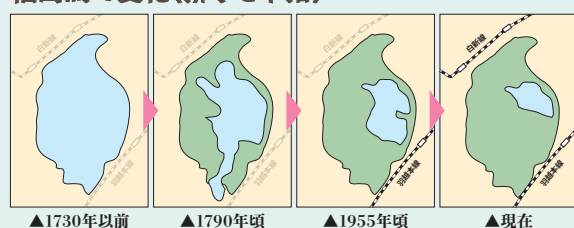
撮影：波多野孝氏 ▲春に咲く一面の菜の花



写真提供：田辺修一郎氏 ▲干拓前の福島潟の様子



福島潟の変化(排水と干拓)



福島潟の本格的な干拓は、阿賀野川の河口が開削された1730年から始まります。一気に排水が進んだ土地を、江戸中期の人々が勇んで干拓していきました。その後、干拓は頭打ちとなりますが、戦後に新井郷川排水機場が完成して排水が進むと、さらに干拓が進んで現在の姿となりました。



新潟市最大の潟湖！
福島潟
を紹介します！

クイ・クイ ©新潟市

多様な生物の宝庫、自然豊かな湿地に

福島潟の生態系は、排水や干拓を繰り返す中で変化し続けています。現在は浅い水域にヨシ帯が広がり、越冬数日本一のオオヒシクイや日本海側における北限のオニバスをはじめ、多様な水辺の生き物が生育・生息する豊かな湿地となっています。

排水と干拓を繰り返し、現在の姿へ

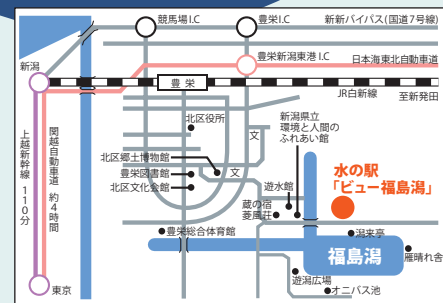
かつては白新線と羽越本線の間を埋め尽くすほど広大な福島潟は、江戸期の大規模な治水事業などによって干拓が本格化します。戦後に排水と干拓がさらに進展して、現在の姿となりました。これまで何度も水害に見舞われた福島潟周辺では放水路も完成し、現在は干拓地の一部を再び潟に戻して遊水池にもするなど、全国でも珍しい自然との調和を両立させた工事が進められています。

新潟砂丘にふさがれて誕生した潟湖

越後平野には村上から角田山まで海沿いに、巨大な砂丘列が形成されていて「新潟砂丘」と呼ばれています。縄文時代から形成されたこの砂丘列はかつて、大小問わず河川の河口をこごとくふさぎ、越後平野を「水びたしの大地」にして、様々な潟湖を出現させました。福島潟もそのうちのひとつで、新潟市では最大の面積を有します。



▲水の駅「ビュー福島潟」は平成26年度から、指定管理者「福島潟みらい連合」が運営して、様々な取組を展開しています。



- 開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)
- 休館日：月曜日(休館日が祝日の場合は翌日)、年末年始(※4階以上をご利用の場合は入館券(一般400円、小中高生200円)が必要となります。)
- 住所：新潟市北区前新田乙493番地
- TEL: 025-387-1491 ●E-mail: hishikui@pavc.ne.jp
- URL: <http://www.pavc.ne.jp/~hishikui/index.html>

阿賀の宝もん ★発掘レポート

阿賀野川の歴史や文化、人や暮らし、自然環境…などを流域の未来に生かす取組を、毎号掲載。

水・駅 vol.5 ビュー福島潟

平成7年に新しい福島潟がオープン

「今の親しみやすい景観とは違って、幼い頃の福島潟は畏怖の念がわきあがるほど広大でした」水の駅「ビュー福島潟」の島吉郎館長がそう述懐するほど、昔の福島潟は「水の海」のように広く、舟が何そうも往来し、様々な自然の恵みを享受できる場所でした。しかし、高度経済成長を経て人々の暮らしは潟から遠ざかり、人の手が入らなくなった福島潟は荒廃し始めます。

その後、福島潟の景観を取り戻そうと、平成の時代に入って水の公園の整備が本格化し、平成7年に水の駅「ビュー福島潟」がオープンしました。

人と自然の新しい関係を紡ぐ先に

現在の福島潟では水の駅「ビュー福島潟」を発信や活動の拠点として、自然学習園やキャンプ場「潟来亭」(休憩施設や「雁晴れ舎」(環境省設置の野鳥観察施設などが運営されています)。

福島潟をとりまく活動も多彩で、昔ながらの漁場としての利用はもちろん、地元の人々を中心に「ヨシ焼き」や「福島潟クリーン作戦」などの環境保全活動も取り組まれています。さらに、「自然文化」を合言葉に、「ヨシあし和紙の会」や「鳥彫会」などの様々な団体が思い思いに潟を楽しむなど、人と自然との関係づくりが広がっています。

「今後は、治水や歴史文化といった観点から、様々な地域や団体との連携を深めていきたいですね」と、水の駅「ビュー福島潟」事務局長の佐藤安男さんが抱負を述べると、島館長も「福島潟が人々の心と体の健康づくりの場にもなれば…」と福島潟のこれからを熱く語っていた姿が印象的でした。

イチオシ企画! 9/7(土)～10/6(日)
地元学シリーズ 第19弾 **ねし展**

「ねし」とは方言のことで、「ここは福島潟しかなかったねし」など、この土地独特の言葉遣いが、福島潟の記憶を呼び起こします。地元の人々から聞き取った話を「方言」をキーワードに紹介します。



▲福島潟をとりまく活動のうち、特に秋に開催される「福島潟自然文化祭」では「雁迎灯」が圧巻(写真左)で、「潟の楽校」「潟鍋合戦」なども体験できます。



P4～5に使用されている写真及びイラストは一部をのぞき、水の駅「ビュー福島潟」及び佐藤安男氏から提供していただきました。

P4～5のページの文は水の駅「ビュー福島潟」から提供いただいた資料などから一部引用して作成し、図のデザインはパンフレットなどに掲載された図の一部を改変して引用しました。



写真左から、出典「鹿瀬工場タイムス」(昭和電工㈱)、大阪府日本万国博覧会記念公園事務所所有、出典「四日市市史第19巻通史編現代」(四日市市)、「東京オリンピック記念特集号」(国際情報社)、「アルバム戦後25年」(朝日新聞社)、絵葉書写真、「婦中町史」(婦中町)



▶ 講座の後は、環境と人間のふれあい館も訪問し、館内見学などを行って、新潟水俣病への理解を深めました。

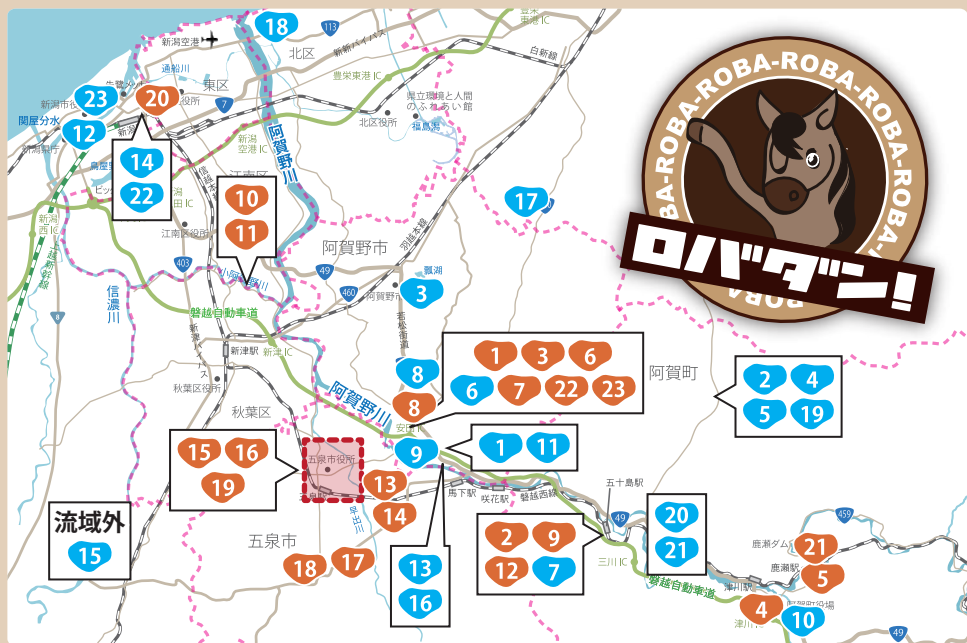
◀ 今回のランチは、いつもの豪華な粗食弁当に加えて、蒸しかまどで炊いた三角油揚げと大根の炊き込み御飯でした。



今回のフォーラムでは、「昭和30～40年代の日本」と「四大公害」について、豊富な写真や図の数々を、参加者の皆さんと共に振り返りながら学びました。特に四大公害について、これまで必ずしも俯瞰した視点から整理されておらず、当日は各公害の関連性とその意味を本質的に深めていく学習が行われました。

参加者の主な感想等

- 分かりやすかった。光と影…どちらも見ないといけないと思う。(江南区・60代)
- 公害は痛ましい負の遺産ではあるが、現在の経済が成り立っている礎だと思えばやはり学ぶべき事だと思う。いまだに苦しんでいる人を思いつつ風化しないようにしたいと思う(東区・60代)。
- ふれあい館のある区に住んでいながら足を運ぶことなく過ごしていたが、今回このような機会が得られてとても良かった。公害問題は見逃してはいけない事なんだと感じた。(北区・60代)
- 具体的で分かりやすく後世へ伝えようとするこの試みは、他へもぜひ広めたいと思った。(秋葉区・50代)



- | | |
|--------------|--------------|
| 1 阿賀町地元学ロバダン | 13 環境学習ロバダン2 |
| 2 現地語りロバダン1 | 14 環境学習ロバダン3 |
| 3 環境学習ロバダン1 | 15 環境学習ロバダン4 |
| 4 鹿瀬昔語りロバダン1 | 16 環境学習ロバダン5 |
| 5 被害者ケアロバダン | 17 環境学習ロバダン6 |
| 6 阿賀野川ロバダン | 18 環境学習ロバダン7 |
| 7 鹿瀬昔語りロバダン2 | 19 環境学習ロバダン8 |
| 8 新潟水俣病ロバダン | 20 環境学習ロバダン9 |
| 9 現地語りロバダン2 | 21 CSR研修ロバダン |
| 10 川業ロバダン1 | 22 資料整備ロバダン1 |
| 11 川業ロバダン2 | 23 資料整備ロバダン2 |
| 12 現地語りロバダン3 | |

- | |
|---------------|
| 1 阿賀野市産品ロバダン1 |
| 2 流域鉱山ロバダン1 |
| 3 阿賀野市産品ロバダン2 |
| 4 流域鉱山ロバダン2 |
| 5 流域鉱山ロバダン3 |
| 6 流域鉱山ロバダン4 |
| 7 流域鉱山ロバダン5 |
| 8 産業体験ロバダン1 |
| 9 産業体験ロバダン2 |
| 10 産業体験ロバダン3 |
| 11 産業体験ロバダン4 |
| 12 企業研修ロバダン1 |

平成30年度 阿賀野川流域 ロバダン!マップ

「ロバダン! (炉端談義)」の開催状況(平成30年4月～平成31年3月)が一目でわかるマップ。平成30年度はFM事業&阿賀野川エコミュージアムを合わせて、46件開催しました。

-で開催したロバダン!
-で開催したロバダン!

- | |
|--------------|
| 13 流域食材ロバダン1 |
| 14 企業研修ロバダン2 |
| 15 企業研修ロバダン3 |
| 16 流域食材ロバダン2 |
| 17 被害者交流ロバダン |
| 18 流域アートロバダン |
| 19 流域鉱山ロバダン6 |
| 20 流域鉱山ロバダン7 |
| 21 流域鉱山ロバダン8 |
| 22 企業研修ロバダン4 |
| 23 流域食材ロバダン3 |

〈優秀賞〉を受賞された皆さんと作品テーマ

◆小学校5・6年生の部

- 「『光』と『カバズ』」
平山周さん(上越市立東本町小学校5年)
- 「水俣病について学んで」
貝沼祐奈さん(上越市立東本町小学校5年)

◆中学校の部

- 「繰り返さぬために」
佐藤百華さん(新潟明訓中学校2年)
- 「今、私たちにできること」
平岡千鶴さん(新潟明訓中学校2年)

作文の全文は、「阿賀野川え～とこだ流域通信」に掲載してありますので、ぜひご覧ください!

令和元年6月15日、作文コンクールの表彰式が環境と人間のふれあい館で開催され、上記4名の方々が優秀賞を受賞されました。

同コンクールは、新潟水俣病被害者の「こんな苦しみは自分たちだけでたくさんだ。子や孫に同じ苦しみ味わわせてはならない」という切なる思いから、次代を担う子どもたちに身の回りの環境に関心をもってもらおうと、新潟県内の小・中学生を対象に毎年開催されています。

作文テーマは「新潟水俣病や身の回りの環境問題」などで、今年は301点の応募がありました。



写真提供:新潟水俣病共闘会議・有田純也氏

第20回 新潟水俣環境賞 作文コンクール受賞作品発表

主催:新潟水俣病被害者の会、新潟水俣病阿賀野患者会、後援:新潟県・新潟県教育委員会、新潟市・新潟市教育委員会、阿賀野市・阿賀野市教育委員会、五泉市・五泉市教育委員会、阿賀町・阿賀町教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0



特集
3

懐かしい写真でふりかえる

昭和30～40年代の日本・ 高度経済成長ものがたり

日時:平成31年3月17日(日)
場所:新潟市江南区文化会館 → 県立環境と人間のふれあい館 当日54名参加

開催レポート!

阿賀野川
え～とこだ
流域通信

阿賀野川
エコ
ミュージアム

阿賀野川エコミュージアム
を目指す流域再生
フォーラム(第8回)



撮影:波多野孝氏

▲リヤカーでひかれる旅地蔵
お地蔵さんを乗せたリヤカーが、阿賀野市(旧安田町)に立ち寄った際の一コマ。

お問合せ

冥土のみやげ企画
flag@cronos.ocn.ne.jp

旅地蔵 阿賀をゆく

発行 冥土のみやげ企画

公害の地を結ぶ4体目のお地蔵さん

阿賀野川沿いの千唐仁を中心に、新潟水俣病被害者を支援してきた旗野秀人さんが、最初にお地蔵さんを建立したのが、熊本県水俣市の工場排水口近くで、阿賀野川の石に彫られたお地蔵さんでした。2体目は水俣の石に彫られたお地蔵さんが、唐仁に建立され、両者は向かい合う兄弟地蔵となります。

かつて新潟水俣病の原因工場近くの山で草倉銅山が栄え、足尾銅山の開発を支えた歴史があることから、3体目は阿賀野川の石に彫られ、足尾銅山の渡良瀬川下流に安置されました。そして、そこで見つけた石に彫られた4体目のお地蔵さんが、この本の主役で、長く設置場所が決まらず宙ぶらりんのままです。

折しも新潟市で「水と土の芸術祭」が開催される年、1人のアーティストが名乗りを上げて、阿賀野川河口の松浜から上流の草倉までリヤカーをひいて旅をする「阿賀をゆく」……はたしてお地蔵さんは草倉の地に安置されることになるのか、その顛末はぜひ本書で確認してください。

～新潟水俣病トピックス～